

主催：一般社団法人コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会  
地域医療を支える精神科医育成のための研修事業

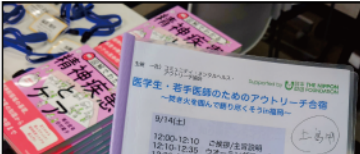


# 第一回 医学生・若手医師のためのアウトリーチ合宿 ～焚き火を囲んで語り尽くそう in 福岡～ 開催報告

## 開催概要

2024年9月14日15日の1泊2日にわたって福岡市にて第一回「医学生・若手医師のためのアウトリーチ合宿」研修を行った。北は北海道、南は九州からと全国から医学生10名、研修医・専攻医6名、若手医師2名の18名にご参加いただき、講師陣9名と寝食を共にしながら精神科アウトリーチの魅力と日本の現状を語る機会となった。

### day 1

### 座学・グループワーク

<b>精神科でのリカバリーの考え方 (植田俊幸)</b> リカバリー概念やストレングス、レジリエンスなど、アウトリーチの鍵となる概念を事例を交え講義した。学生はリカバリーと自体知らなかった、障害があっても地域で希望を持って暮らせる人がいることに驚き、医師たちは発展途上国の方が回復が良い報告から、日本の課題を感じ取っていた。	<b>日本の精神医療の現状と課題 (野口正行)</b> 日本の入院中心医療の現状を示しつつ、「にも包括」を現実にするために、包括的支援体制と人権重視の流れが必要であることをデータを示しながら講義した。今の入院中心のあり方は学生には大きな衝撃で、その後も何度も議論に登った。	<b>利用者・家族との対話 (西尾雅明、谷口研一朗)</b> アウトリーチを活用した当事者、家族に活用して良かったことや精神科医への思いを率直に語っていただいた。薬や治療の知識以上に人としての関わりが大事ということを感じた、自らの診療を振り返った、など感情を揺さぶられる時間となった。	<b>座談会・往診の魅力 (三家英明、岡崎公彦)</b> アウトリーチのシステムの説明後、40年往診に取り組んでおられる三家先生のお話を伺った。参加者全体が、模範となる三家先生のお話に聞き入り、先生の姿勢を学ぶとともに、往診の実際と難しさとそれを上回る魅力を知る時間となった。
			

### 懇親会 gathering

### 海辺での懇親会・焚き火タイム

#### 焚き火を囲んでの対話の時間 (藤井和世、岡崎公彦、谷口研一朗)

海辺でバーベキューを囲みながら、今後のライフプランなど先輩医師に聞きたいことなどをざっくばらんに交流を行った。その後「言葉の焚き火」というメタファーを使って、自分のタイミングで語りた言葉を出す体験を行った。焚き火を見つめながら自分から浮かび上がることを語る体験は、「内的な自分と向き合う時間になった」、「リカバリーを目指すのは押し付けではないか、と根本的な話もあり、そうした問いかけがあったからこそ、焚火の時間が自分の中で合宿のハイライトになった」など静かな中でも刺激的な時間となった。



### day 2

### 座学・グループワーク

#### 統合失調症 (上島雅彦)

事例検討の前に、学生向けに統合失調症の講義を行った。薬物療法と心理社会的リハビリテーションの重要性、また多職種アウトリーチで柔軟な支援を行うことで回復された方の事例を紹介いただき、その後の事例のイメージが共有できた、との感想をいただいた。

#### 事例検討 (野口正行、上島雅彦、渡邊真里子)

参加者に実際にアウトリーチしている事例を出していただき、全員で事例検討を行った。まず事例提供者の率直な支援や姿勢に皆が感銘を受けた。その上で、関心のあるところから近づいていく、ゆっくりと関わって良いのではという先輩医師からのコメントは学びになったようである。特に研修医・専攻医が積極的に発言され、医学生はグループの医師に聞きながら懸命に学んでいた。事例提供の福武先生のIPSの講義を特別に入れていただき、就労でのアウトリーチの重要性を語っていただき、こちらも大変好評であった。

